

ベニゴマオカタニシ *Georissa shikokuensis* Amano, 1939

ゴマオカタニシ科 Hydrocenidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-b) 変更コード 1, 6

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

石灰岩地に生息する微小な陸貝。殻は赤褐色で殻高 2.5 mm、殻径 1.6 mm。各層はふくらみ、縫合は深い。殻口は円形で半円形の蓋がある。臍孔は閉じる。非石灰岩地にも生息するゴマオカタニシとはよく似るが、この種にある螺状脈が本種にはない。

2. 分布

日本固有種で、関東以西の本州から四国、九州にかけて分布する。県内では浜松市北区、浜北区、天竜区南部の一部の石灰岩地にのみ分布する。浜松市北部の石灰岩地や浜松市以外の石灰岩地には分布しない。

3. 生息環境

石灰岩の露頭に生息する。石灰岩の岩壁や積み重なった岩塊に付着する。そのような場所に生育する広葉樹の幹に登ることもある。

4. 生息状況

本種が生息する静岡県の石灰岩地はいずれも小さく、孤立している。ただし、生息地での個体数は多い。

5. 減少の主要因と脅威

主な減少理由は、石灰岩の採掘 (17) による生息地の消失にある。近年、新たな石灰岩地の採掘は行われていないが、風力発電所や農地造成として失われた生息地がある (23)。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

Kato M., M. Matsumoto & T. Kato (1989) Terrestrial malacofauna of Shizuoka Prefecture in Japan: Biogeography and guild structure. *Contributions from the Biological Laboratory Kyoto University*, 27: 171-215

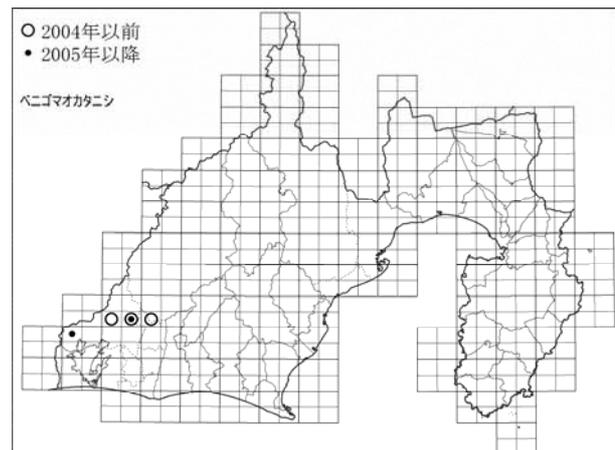
9. 標本

浜松市産：個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(加藤 徹)



浜松市北区産 2010年11月 加藤 徹採集



マルタニシ *Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens, 1860)

タニシ科 Vivipariidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-ab) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

池沼や水田などに生息する中型の淡水貝。殻高 60 mm、殻径 45 mm 程度とタニシ類としては大型だが、オオタニシよりは少し小型である。殻は黒褐色の殻皮をまとう。縫合は深く、螺層は丸くふくらむ。卵胎生で、胎殻の殻頂は尖らず、丸みを帯びる。

2. 分布

日本固有亜種で、北海道から沖縄にかけて広く分布する。県内では各地に分布するが、生息地は少ない。

3. 生息環境

池沼や水田など流れが緩やかな水底が泥質の淡水域に生息する。

4. 生息状況

かつては水田に多く生息していたが、山間地や生態系に配慮した農法を行うような場所でなければ見つけることは困難である。

5. 減少の主要因と脅威

水田においては、農薬 (32) や水質の悪化 (31) として乾田化 (15-2) などにより減少した。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

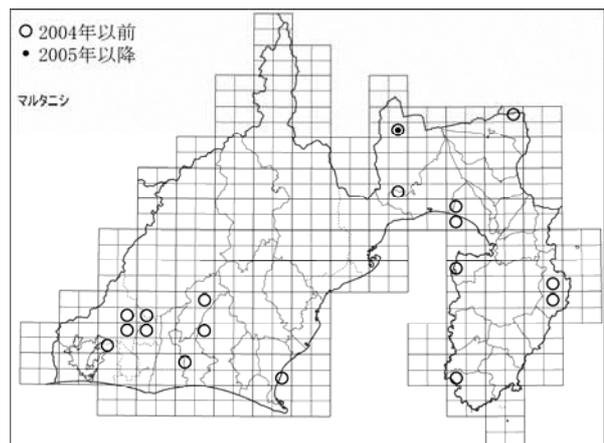
増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑
② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ,
東京, 240 pp.

9. 標本

浜松市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



©2019 T.Kato
浜松市北区産 1997年11月 加藤 徹採集



(加藤 徹)

オオタニシ *Cipangopaludina japonica* (Martens, 1860)

タニシ科 Vivipariidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-ab) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

池や小川に住む淡水貝。タニシ類としては大型で、殻高 65 mm、殻径 50 mm。やはり大型のマルタニシと似ているが周縁に弱い角があり、各層の膨らみが弱いことで区別できる。卵胎生で、幼貝は周縁が極端に角張り、そろばん玉型をする。

2. 分布

日本固有種で、本州から九州にかけて分布する。静岡県では各地に分布するが、産地は少ない。

3. 生息環境

池沼や小川、用水路などに生息する。マルタニシより澄んだ水の場所や深い場所に多く、県内の水田にはほとんど生息しない。

4. 生息状況

かつては各地にふつうに生息していたものと思われるが、現在の生息地は少なく、個体数も多くはない。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の開発 (12) や水質の悪化 (31) により減少しているものと思われる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑

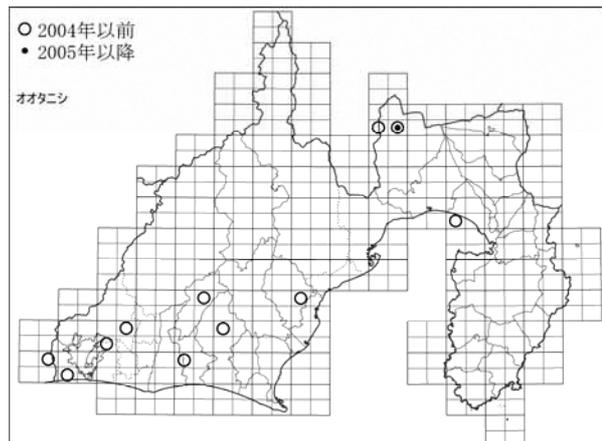
② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.

9. 標本

掛川市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



掛川市産 2003年4月19日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

クロダカワニナ *Semisulcospira kurodai* Kajiyama & Habe, 1961

カワニナ科 Pleuroceridae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-ab) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小川などに生息する中型の淡水貝。殻高 30 mm、殻径 10 mm 程度。外見はカワニナに酷似している。カワニナと比べてやや細長く、螺肋が太くて数が少ないが、殻だけで区別するのは困難である。顕著な違いは胎貝の大きさと数で、本種は 1.5 mm で 80 個程度、カワニナは 1 mm 以下で数百個を持つ。

2. 分布

日本固有種で、本州の東海地方から中国地方東部にまで分布する。県内では西部の天竜川水系以西の平野に分布する。磐田市の生息地が分布の東限である。

3. 生息環境

流れの緩やかな小河川の泥底に生息する。生息地ではカワニナも同所的に見られるが、本種はカワニナのように流れの速い場所や礫底には少ない。

4. 生息状況

カワニナに酷似しているため混同され古い記録はないが、かつては天竜川水系や浜名湖周辺の小河川に広く分布していたものと考えられる。しかし、現在は2つの小河川で生息が確認されているにすぎない。

5. 減少の主要因と脅威

生息域の小河川は主に農地が広がる平野を流れるが、宅地などへの開発 (23) も進み、生活排水 (31) や農薬 (32) などの流入により多くの場所で消滅していったと考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.

高見明宏 (1997) クロダカワニナの分布と成員および新生貝の種内変異. VENUS, 56(4): 305-317

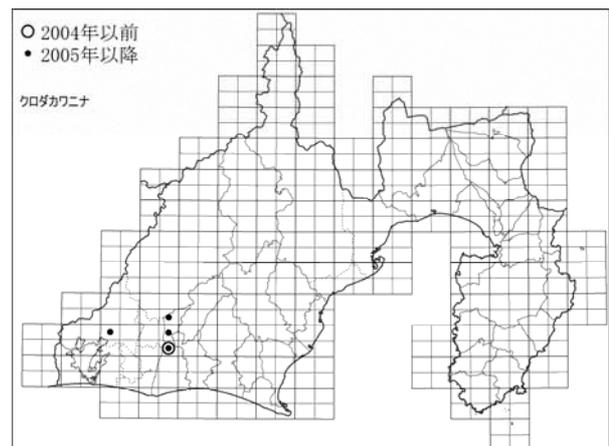
9. 標本

浜松市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(加藤 徹)



浜松市北区産 2015年11月28日 加藤 徹採集



ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ *Assimineia* sp.

(=2004年版のムシヤドリカワザンショウガイ)

カワザンショウガイ科 Assimineidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-ab)変更コード 11

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

河口のヨシ原などに生息する小型の貝。殻高 4 mm、殻径 3 mm。殻は赤褐色で光沢があるが、縫合の下には幅の広い淡色帯がある。螺塔は円錐形で縫合は浅く螺層のふくらみが弱い。臍孔は閉じる。

2. 分布

日本固有種で、本州の太平洋側から九州にかけて分布する。県内では伊豆半島南部にのみ分布する。生息するのは下田市の大賀茂川と南伊豆町の青野川のそれぞれ河口の少し上流域の干潟に限られる。

3. 生息環境

河口付近の干潟の泥上に生息するが、泥上に発達したヨシ原に最も多く生息する。生息地にはカワザンショウガイやクリイロカワザンショウガイも生息するが、本種の個体数が最も少なく、生息範囲も狭い。

4. 生息状況

青野川は護岸構造物のために本種の生息が可能なヨシ原はほとんどなくなり、生息数は少ない。大賀茂川の生息密度は低くないが、河川自体が小規模で干潟の面積も狭いため、全体数は非常に少ないと考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

護岸工事などによる干潟の破壊 (13) により生息地が失われた。また、河川上流側の温泉施設や住宅地からの排水による水質の悪化 (31) も懸念される。大賀茂川のヨシ原上にボード・ウォークが建設され、その影響が懸念されたが、今のところ本種の生息状況の変化は見られない。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

本種はムシヤドリカワザンショウガイ *Assimineia parasitologica* Kuroda, 1958 とされていたが、その後の分子系統解析により本州の太平洋側や瀬戸内海、九州に生息する個体群は別種とみなされるようになった (福田, 2012)。ただし、まだ種の記載はされていない。

8. 主な文献

福田 宏 (2012) ヒナタムシヤドリカワザンショウ. 日本ベントス学会 編, 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック, p. 48. 東海大学出版会, 秦野.

増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.

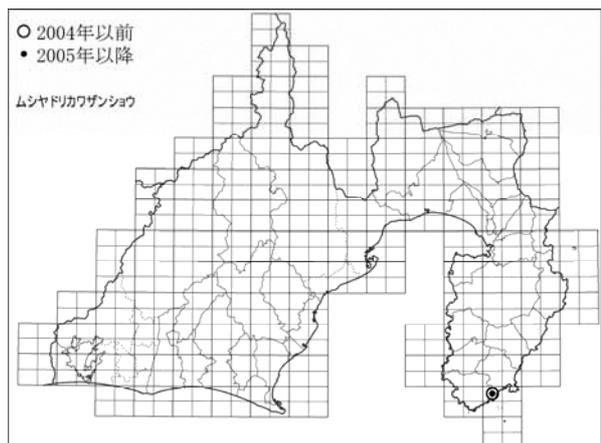
奥谷喬司 編著 (2017) 日本近海産貝類図鑑 第2版. 東海大学出版部, 秦野, 1382 pp.

9. 標本

下田市産: 個人所蔵、南伊豆町産: 国立科学博物館所蔵



下田市産 2012年5月 加藤 徹採集



(加藤 徹)

ヨシダカワザンショウガイ *Angustassiminea yoshidayukioi* (Kuroda, 1959)

カワザンショウガイ科 Assimineidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-ab)変更コード 11, 13

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

河川の下流域から河口付近の草地に生息する小型の貝。殻高 3.5 mm、殻径 3 mm。殻は褐色で光沢がある。色帯はない。縫合は浅く窪み、その直下に微細な 1 本の溝がある。臍孔が狭く開くことで、県内の河口域に生息する他のカワザンショウ類と区別される。

2. 分布

日本固有種で、東京湾から九州にかけて分布する。県内では伊豆半島と浜名湖周辺にのみ分布すると考えられていたが、その後、富士市から天竜川にかけての大小の河川の河口域などにも生息することがわかった。なお、天竜川では河口から 18 km 上流にまで分布する (加藤, 2012)。

3. 生息環境

他のカワザンショウガイ属の貝類とは違い、水面からかなり離れた草地に生息し、したがって随伴種はヒメコハクガイやナメクジ、ウスカワマイマイといった陸貝となる。

4. 生息状況

佐鳴湖や天竜川をのぞき、個体数ほどの産地も少ない。特に伊豆の河川では生息密度が低い。

5. 減少の主要因と脅威

生息環境である河口域周辺は、河川の増水による攪乱 (55) や河川改良工事 (13) などの影響が懸念される。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特に特になし。

8. 主な文献

福田 宏 (2012) ヨシダカワザンショウ. 日本ベントス学会 編, 干潟の絶滅危惧動物図鑑-海岸ベントスのレッドデータブック, p. 46. 東海大学出版会, 秦野.

加藤 徹 (2012) 静岡県の各河川で洪水時の漂着物で採集される貝類. 遠州の自然, (35): 15-18

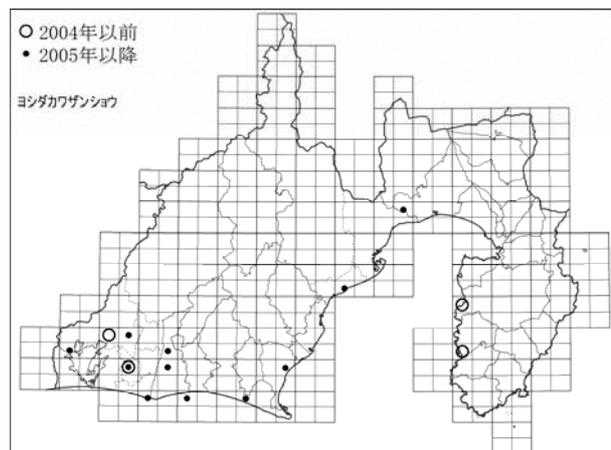
9. 標本

掛川市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(加藤 徹)



掛川市産 2011年5月14日 加藤 徹採集



ヤマモトゴマオカチグサ *Cavernacmella yamamotonis* (Minato, 1973)

(=ヤマモトミジンオカチグサ)

カワザンショウガイ科 Assimineidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-b) 変更コード 1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

殻高 1.5 mm ときわめて微小な貝。殻には光沢があり、白色半透明で軟体部が透ける。殻は円錐形で臍孔は開く。

2. 分布

日本固有種で、伊豆半島から紀伊半島周辺に分布するが、県内では伊豆半島にのみ分布する。伊豆半島においても、東伊豆町と伊豆市でのみ確認されているにすぎない。

3. 生息環境

転石海岸の飛沫帯に生息する。汀線から陸側に向かい、植生が見られはじめる付近の積み重なった転石の深い部分に生息する。転石の浅い部分にはヘソカドガイがよく見られる。

4. 生息状況

清浄な海岸の深くまで転石が積み重なる環境にのみ生息する。生息地は少なく、生息数も少ない。ただし、本種を見いだすには転石を深くまで掘り下げねばならないため、調査を進めれば他にも生息地が見つかる可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

転石海岸は伊豆半島に広くあるが、本種が生息する場所はきわめて限られる。そのため、厳しい生息条件が必要であることが考えられる。生息地の海岸開発は脅威となる (14)。

6. 保護対策

既知の産地は富士箱根伊豆国立公園に指定されているが、具体的な保護策はとられていない。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

奥谷喬司 編著 (2017) 日本近海産貝類図鑑 第2版. 東海大学出版部, 秦野, 1382 pp.

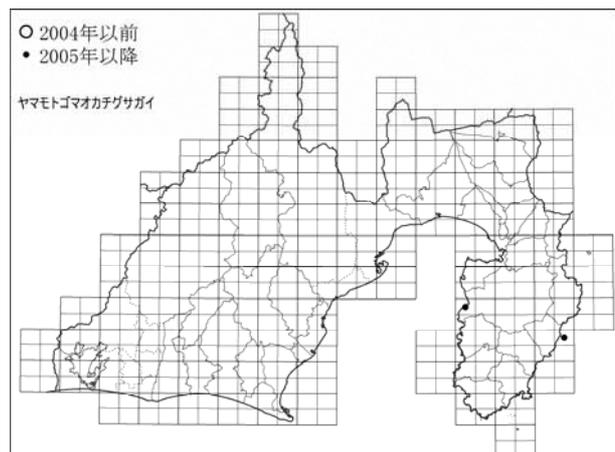
和田太一・川渕千尋・為後智康 (2015) 成ヶ島および紀淡海峡の礫浜海岸飛沫帯上部で採集された希少腹足類3種. *Molluscan Diversity*, 4(1-2): 37-49

9. 標本

東伊豆町産ほか：個人所蔵 (公的機関の保管不明)



東伊豆町産 2012年11月 加藤 徹採集



(加藤 徹)

ホラアナゴマオカチグサ *Cavernacmella kuzuensis* (Suzuki, 1937)

カワザンショウガイ科 Assimineidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-ab) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)]

1. 種の解説

石灰岩地の洞窟に生息する眼のない微小な陸貝。殻高 2 mm、殻径 1.3 mm で螺塔は円錐形で、殻は薄く半透明で白い。臍孔は狭く開く。海岸の転石下に生息するヤマモトゴマオカチグサとは眼の有無以外きわめてよく似ていて、本種との関係が指摘されている (福田・加藤, 1996)。

2. 分布

日本固有種で、東北から沖縄にかけて分布する。県内では浜松市の石灰岩地に分布する。今までに見つかっているのは浜松市北区と浜北区の 5 ヶ所の洞窟のみである。

3. 生息環境

石灰岩洞の中の湿った壁面に生息するが、どの洞窟でも生息が確認できるのはごく一部に限られる。

4. 生息状況

生息地での生息数は少ない。ただし、人が入れないような場所にも生息している可能性はある。

5. 減少の主要因と脅威

石灰岩洞自体が破壊されたり、観光洞化されることは今後ないと思われるが、それぞれ個体数が少なく、人の出入りも可能であるので、何らかの環境の変化で絶滅する可能性がある (18)。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

福田 宏・加藤 真 (1996) 真洞窟棲陸貝ホラアナ

ゴマオカチグサの起源-特にヤマモトゴマオカチグサとの関係 (腹足綱: 新紐舌目: カワザンショウガイ科). *Venus*, 55: 81-82

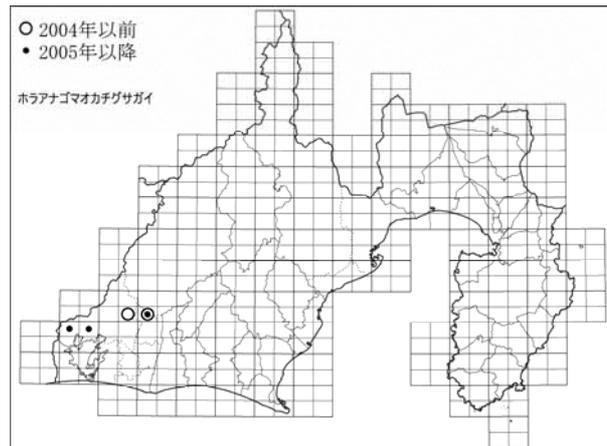
9. 標本

浜松市産: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



©2019 T.Kato

浜松市北区産 2008年10月 加藤 徹採集



(加藤 徹)

ヤマトクビキレガイ *Truncatella pfeifferi* Martens, 1860

クビキレガイ科 Truncatellidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

海岸の高潮帯に生息する小型の貝。殻高 6 mm、殻径 2.5 mm。殻表には顕著な成長脈がある。亜成貝程度までは高い円錐形をしているが、後に胎殻から数層が脱落し円柱状になる。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道から九州に分布する。県内では伊豆半島の海岸にのみ分布する。伊豆半島での分布は広いが局地的である。なお、熱海市沖の初島にも分布する。

3. 生息環境

転石海岸の高潮帯付近の石の下に生息する。下面が砂に埋もれたような石の下にすみ、ナギサノシタタリやハマシイノミガイ、サツマクリイロカワザンショウガイなどが随伴種としてよく見つかる。

4. 生息状況

清浄な海岸で見つかり、市街地に近い海岸には生息しない。そのため、産地は局地的で少なく、産地でも個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

かつては伊豆半島の海岸にはふつうに分布していたと思われるが、現在では産地は限られる。前述のナギサノシタタリなどの随伴種が見られても本種が見つからない場所が多いため、何らかの環境の変化に弱いものと考えられる。生息地の海岸開発は脅威となる(14)。

6. 保護対策

ほとんどの産地は富士箱根伊豆国立公園に指定されているが、具体的な保護策はとられていない。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.

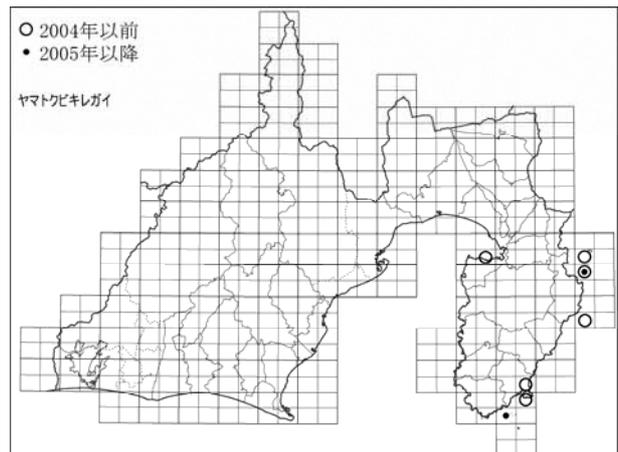
奥谷喬司 編著 (2017) 日本近海産貝類図鑑 第2版. 東海大学出版部, 秦野, 1382 pp.

9. 標本

南伊豆町産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



南伊豆町産 2012年11月18日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

モノアラガイ *Radix auricularia japonica* (Jay, 1857)

モノアラガイ科 Lymnaeidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-ab) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

池沼や川に生息する小型の淡水貝。殻高 10~20 mm、殻径 8~15 mm 程度だが殻の大きさや形状は変異が大きい。殻は褐色で光沢があり、きわめて薄い。体層は著しく膨大し、殻口高は殻高の 3/4 程度を占める。軸唇が反転することで、ヒメモノアラガイなどと区別できる。

2. 分布

日本固有亜種で、北海道から九州にかけて分布する。県内では各地の平野から里山にかけて分布する。

3. 生息環境

比較的美しい池沼や流れの緩い河川に生息する。

4. 生息状況

かつてはどこにでも生息しており、水田などでも最もふつうな淡水貝であった。現在では水田ではほとんど見られず、池沼などでもサカマキガイやヒメモノアラガイなどの外来種はたくさん生息しているが、本種は条件がよくなると見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

生活排水 (31) や農薬 (32) などの影響が大きいと考えられ、そのような影響が大きい場所ではサカマキガイは見られるが、本種は生息しない。また、ヒメモノアラガイやハブタエモノアラガイなどの近似の外来種が増加しており、それらとの競合 (56-1) の影響も考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

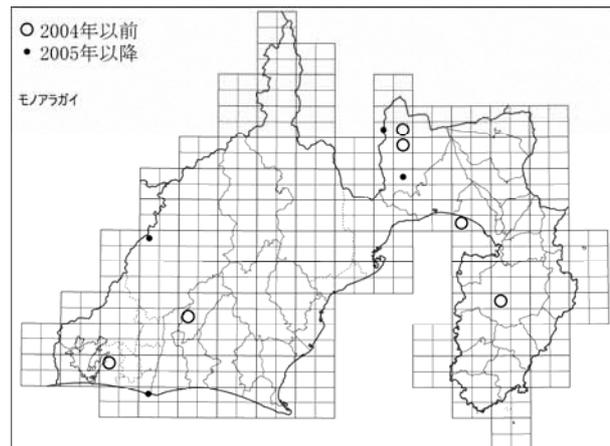
増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.

9. 標本

浜松市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



浜松市北区産 2015年11月28日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

ヒラマキガイモドキ *Polypylis hemisphaerula* (Benson, 1842)

ヒラマキガイ科 Planorbidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-ab) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

池沼などに生息する小型の円盤状の淡水貝。殻径 5 mm、殻高 1.5 mm 前後。殻は褐色半透明で光沢がある。生態的には右巻きのように見えるが、構造的には左巻き。螺塔中心部はへこみ、殻径の 1/5 程度を残して体層により覆われる。体層上面内側には数本の直径方向の襞がある。殻底は平らで、臍孔はへこむ。

2. 分布

国外では東アジアに、国内では北海道から沖縄にかけて分布する。県内でも広い範囲で見つかるが、産地は少ない。

3. 生息環境

池沼や流れの緩い小河川に生息する。泥底や水草上に生息する。

4. 生息状況

いずれの産地でも個体数は少ない。静岡県では近似のヒラマキミズマイマイに比べ、産地も個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

かつては県内各地の流れの緩やかな陸水域にふつうに分布していたものと考えられるが、水質の悪化(31)、水田の乾田化(15-2)などにより減少していったものと考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

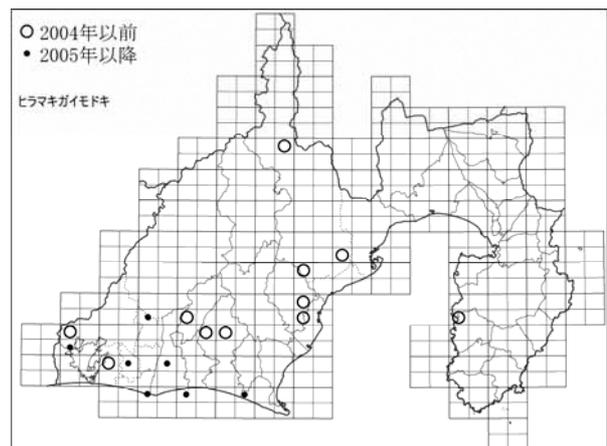
増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.

9. 標本

袋井市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



袋井市産 2003年11月3日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

ヒラマキミズマイマイ *Gyraulus chinensis spirillus* Gould, 1859

ヒラマキガイ科 Planorbidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-ab) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 情報不足 (DD)]

1. 種の解説

池沼などに生息する小型の円盤状の淡水貝。殻径 7 mm、殻高 1.5 mm 前後。殻は褐色半透明で、生態的には右巻きのように見えるが、構造的には左巻き。螺旋塔は大きくへこむ。周縁には弱い角がある。殻底は平ら。

2. 分布

日本固有亜種で、北海道から沖縄にかけて分布する。県内では各地の低地に分布するが、時に山間の湧水地などにも生息する。

3. 生息環境

池沼や小河川の泥底や水草上などに生息する。湧水のあるところで個体数が多い。

4. 生息状況

本県に分布するヒマキガイ科の中では産地・個体数とも最も多く、かつては水田や用水路などにもふつうに生息していたと考えられる。しかし、現在ではそのような場所では湧水があるなどの好条件がないと残ってはいない。

5. 減少の主要因と脅威

生活排水による水質の悪化 (31) や水田の乾田化 (15-2) の影響が大きいと考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑

② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.

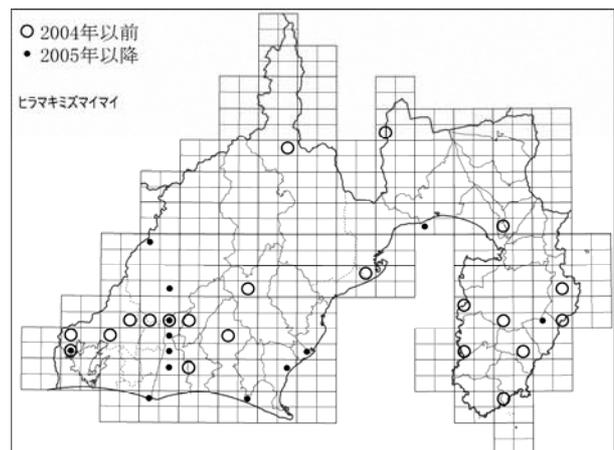
9. 標本

浜松市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



©2019 T.Kato

浜松市天竜区産 2004年5月29日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

トウキョウヒラマキガイ *Gyraulus tokyoensis* (Mori, 1938)

ヒラマキガイ科 Planorbidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-ab)変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 情報不足 (DD)]

1. 種の解説

池沼や川に生息する殻高1mm、殻径7mm程度の円盤状の淡水貝。生態的には右巻きのように見えるが、構造的には左巻き。細かい毛状の突起を伴う厚い殻皮を持ち、周縁角がある。時に、周縁角は外側に薄い膜状に広がる。ヒラマキミズマイマイとよく似ており、同種と見なされることもある。

2. 分布

日本固有種で、関東から南西諸島にかけて分布するが、ヒラマキミズマイマイとの混同などから、十分に解明されていない。県内では伊豆半島の一部のみ分布する。

3. 生息環境

県内では山中の池や溪流で見ついている。溪流では流れのほとんどない部分に生息する。

4. 生息状況

現在生息が確認されているのは人里から離れた場所のみで、集落周辺での生息地は消滅していったものと考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の開発(12)や河川整備(13)、水質の悪化(31)などの影響が大きいと考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑

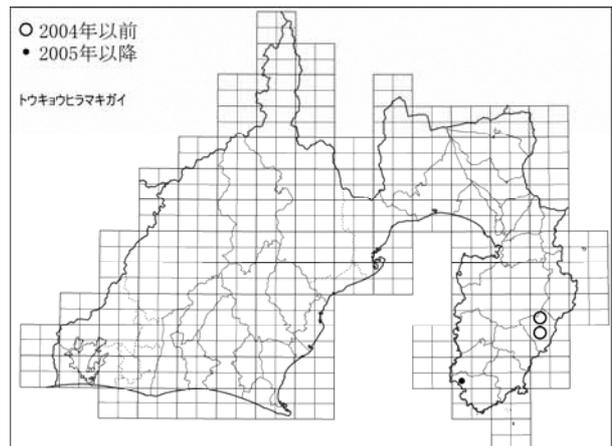
② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.

9. 標本

南伊豆町産: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



南伊豆町産 2004年7月19日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

ナガオカモノアラガイ *Oxyloma hirasei* (Pilsbry, 1901)

オカモノアラガイ科 Saccineidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-ab) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

湿地の草の上に住む陸貝。殻高 12 mm、殻径 6 mm。殻はきわめて薄く半透明で黄褐色を呈す。体層は著しく膨大する。淡水産のモノアラガイ類と形態が似ているが、系統的に全く異なる。

2. 分布

日本固有種で、北海道南部から九州北部にかけて分布する。県内では各地の平地に分布するが、伊豆半島では生息地が少ない。

3. 生息環境

池沼や大小河川の水際付近や湿地に生息する。産地では各種湿生植物の上で生活する。

4. 生息状況

県内での生息地はまだ少なくない。また、生息地によっては多産する。しかし、生息地である湿地や池沼は開発が進んだことから、多くの生息地が消滅したのも事実である。また、水際の護岸化による植生の消滅など、生息環境の悪化が進んでいる。

5. 減少の主要因と脅威

湿地環境の様々な開発 (12、15-1) による生息地の消滅が大きい。また、水際の護岸化 (13) に伴う植生の消滅や乾燥化などの影響も大きいと考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

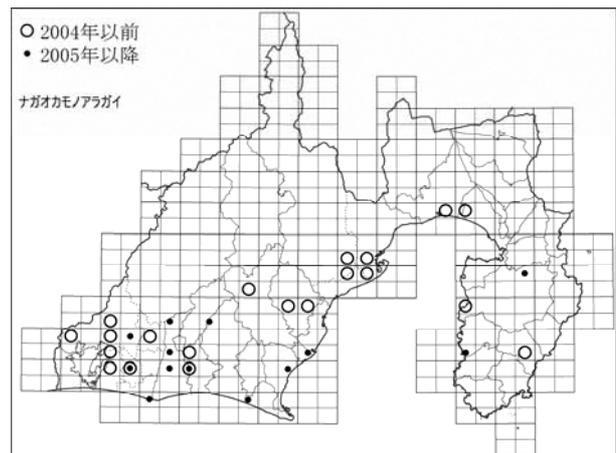
加藤 徹 (2012) 静岡県の各河川で洪水時の漂着物で採集される貝類. 遠州の自然, (35): 15-18

9. 標本

磐田市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



磐田市産 2016年10月29日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

ナタネガイモドキ *Pyramidula conica* Pilsbry & Hirase, 1902

ナタネガイモドキ科 Preurodiscidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a) 変更なし

[2004 年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

石灰岩地に生息する微小な陸貝。殻高 2 mm、殻径 2 mm。殻は黒褐色で粗い成長脈がある。臍孔は大きく開く。

2. 分布

日本固有種で、北海道から本州、四国、九州に分布する。石灰岩地の特産できわめて局地的な分布を呈する。県内では浜松市の天竜区と北区の 2 ヶ所の石灰岩の露頭にのみ分布する。

3. 生息環境

石灰岩の露頭の岩の割れ目や石の下などに生息する。生息地は石灰岩地の中でも局限されており、植生がほとんどない露頭にのみ生息する。

4. 生息状況

産地での個体数は少なくないが、生息地の面積はきわめて狭く、些細な環境の変化で絶滅するおそれがある。

5. 減少の主要因と脅威

浜松市北区の生息地の石灰岩地は、石灰岩の採掘 (17) がかつて行われており、生息地が縮小した可能性がある。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

浜松市北区の生息地の近くには大規模な石灰岩採掘地があり、そこにもかつて生息していた可能性がある。

8. 主な文献

Kato, M., M. Matsumoto & T. Kato (1989) Terrestrial malacofauna of Shizuoka Prefecture in Japan: Biogeography and guild structure. *Contributions from the Biological Laboratory Kyoto University*, 27: 171-215

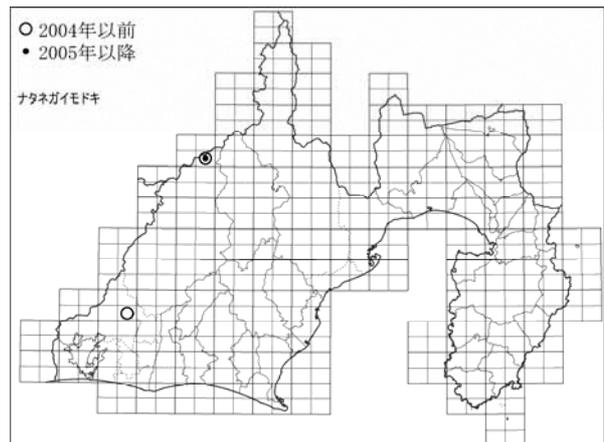
9. 標本

浜松市産：個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(加藤 徹)



浜松市天竜区産 2010年2月21日 加藤 徹採集



ナタネキバサナギガイ *Vertigo eogea* Pilsbry, 1919

キバサナギガイ科 Vertiginidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-b) 変更コード 13

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

湿地や河川敷などに生息する微小な陸貝。殻高 3 mm、殻径 2 mm 程度。殻は褐色で薄い。螺層は丸くふくれる。殻口はゆがんだ半円形で、外唇、内唇、軸唇にそれぞれ 2 歯がある。臍孔は大きく開く。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と東部から西部にかけての平地に点々と分布する。

3. 生息環境

ヨシ群落などがある湿地や小河川に多いが、狩野川、大井川、天竜川といった大河川や、菊川や太田川などの中河川の河川敷にも生息する(加藤, 2012)ことがわかってきた。湿地では泥の上の落ち葉の下などに生息し、大河川の河川敷では漂着物の下やコゴメヤナギ、ハチクなどのやや湿った林床などに生息している。

4. 生息状況

天竜川の河川敷では場所によって比較的多くの個体数が見られるが、他の生息地、特に湿地環境では個体数が少ない。沼津市と富士市の境にある浮島沼や藤枝市の産地では、かつては多数の個体が見られたが、埋め立てなどで減少が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15-1)による生息地の消滅が減少の主要因である。浜松市の台地の縁にある小湿地では乾燥化(54)が進んでいることも脅威となっている。河川敷では、増水による攪乱(55)の影響が懸念される。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

加藤 徹(2012) 静岡県の各河川で洪水時の漂着物で採集される貝類. 遠州の自然, (35): 15-18

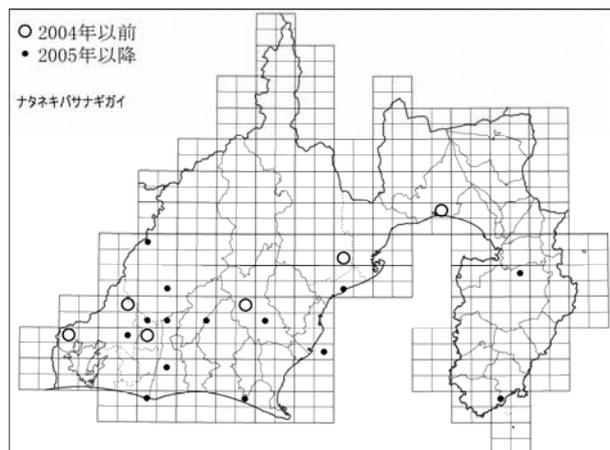
湊 宏(2005) 日本産陸棲貝類の分布資料 5 キバサナギガイ科 ナタネキバサナギガイ. かいなかま, 39(2): 49-57

9. 標本

浜松市産ほか: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



浜松市天竜区産 2010年2月27日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

クチマガリスナガイ *Bensonella plicidens* (Benson, 1849)

ラッパガイ科 Hypselostomatidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-ab) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧(NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

1. 種の解説

石灰岩地に生息する微小な陸貝。殻高 2.5 mm、殻径 2 mm。円錐形で殻口は前方に曲がり、内側に多数の歯がある。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では浜松市北区周辺の石灰岩地にのみ分布する。生息地はやや局地的で、浜松市以外や浜松市北部の石灰岩地では見られない。

3. 生息環境

広葉樹が生える石灰岩露頭の岩の下や割れ目に生息する。随伴種としてベニゴマオカタニシがいるが、本種の方が生息地も個体数もはるかに少ない。

4. 生息状況

いずれの産地も生息範囲はきわめて狭く、個体数も多くない。天竜区南部の石灰岩地では近年生貝が得られないなど、各産地とも減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

石灰岩の採掘(17)による生息地の消滅が大きい。残された石灰岩地でもそれぞれ生息地は狭く、生息環境も限定的であるため、少しの環境の変化でも影響を受けるものと考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

Kato, M., M. Matsumoto & T. Kato (1989)

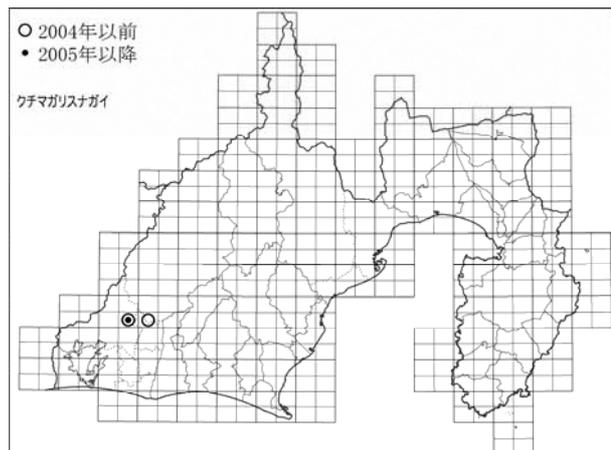
Terrestrial malacofauna of Shizuoka Prefecture in Japan: Biogeography and guild structure. *Contributions from the Biological Laboratory Kyoto University*, 27: 171-215

9. 標本

浜松市産：個人所蔵(公的機関の保管不明)



浜松市北区産 2010年 加藤 徹採集



(加藤 徹)

オクガタギセル *Megalophaedusa dorcas* (Pilsbry, 1902)

キセルガイ科 Clausiliidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a) 変更なし

[2004 年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

山地に生息する中型のキセルガイ。殻はやや太く、胎殻も太い。殻高 23~35 mm、殻径 5~7 mm 程度と変異に富むが、複数種を含む可能性がある。

2. 分布

日本固有種で、北陸から関東・東海にかけて分布する。県内では各地の山地に広く分布するが、伊豆半島での記録は少ない。

3. 生息環境

山地の自然度が高い落葉広葉樹林に生息する。林床の落葉下や倒木下などに生息するが、やや不安定な礫地の礫間で見いだされることも多い。

4. 生息状況

各産地とも個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

広葉樹林の伐採 (11) や道路建設 (24) などによる環境変化などから各地とも減少傾向にある。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

キセルガイ科は DNA 解析の結果、属が再編された (Motochin *et al.*, 2017)。

8. 主な文献

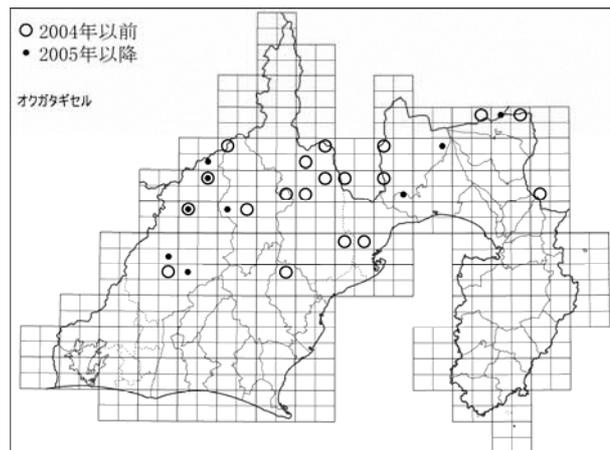
Motochin, R., M. Wang & R. Ueshima (2017) Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). *Zoo. J. Linn. Soc.*, 181(4): 795-845

9. 標本

浜松市産ほか：個人所蔵 (公的機関の保管不明)



浜松市天竜区産 2009年8月29日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

ヒメギセル *Vitriphaedusa micropeas* (Möllendorff, 1882)

キセルガイ科 Clausiliidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-ab) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型のキセルガイで殻高 10 mm、殻径 2 mm。体層基部の内側にある腔襞は、短い主襞と上腔襞、直線上の月状襞があり、下腔襞はない。

2. 分布

日本固有種で、北海道の南西部と本州の静岡県以北に分布する。県内では各地の山地に分布する。生息地はいずれも標高 1,000 m を超す山岳地である。

3. 生息環境

生息地はブナ林で、ブナなどの大径広葉樹の立木の根元や幹のうろなど部分的に枯れた部位または立ち枯れ木に生息する。林床で生貝が見られることはほとんどない。

4. 生息状況

生息地は少なくないが、各地とも個体数はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生息環境が落葉広葉樹の大径木に依存しているのので、原始的な広葉樹林の減少 (11, 54) はそのまま本種の生息数に影響していると思われる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

キセルガイ科は DNA 解析の結果、属が再編され (Motochin *et al.*, 2017)、本種はいくつかの種に分かれる可能性が示唆されている。

8. 主な文献

Motochin, R., M. Wang & R. Ueshima (2017)

Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). *Zoo. J. Linn. Soc.*, 181(4): 795-845

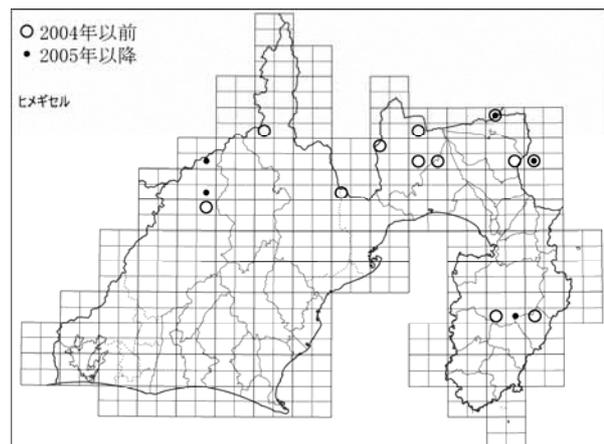
9. 標本

河津町産ほか：個人所蔵、御殿場市産：国立科学博物館所蔵

(加藤 徹)



河津町産 2012年7月22日 加藤 徹採集



スジキビ *Parakaliella ruida* (Pilsbry, 1901)

ベッコウマイマイ科 Helicarionidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

山地に生息する微小な陸貝で殻高 2 mm、殻径 3.5 mm。殻は半透明で濃い飴色を呈す。殻の上面の殻表には粗い成長脈が規則的に並ぶ。周縁角は著しく、竜骨状となる。

2. 分布

日本固有種で、本州にのみ分布する。県内では東部から西部にかけての山地に分布する。伊豆半島では確認されていない。生息地はいずれも標高 1,000 m 以上の山地である。

3. 生息環境

山地のブナ林の林床に生息する。生息するブナ林は大径木が多い自然度が高い場所に限られる。

4. 生息状況

いずれの産地でも個体数は少なく、複数個体を見つけることは困難である。

5. 減少の主要因と脅威

原生的環境に生息するが、そのような場所は面積が狭く、森林伐採 (11) の脅威も拭えない現状である。また、近年特に発見が困難になっているが、シカの増加による林床の質の低下 (54) の影響の可能性もある。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

Kato, M., M. Matsumoto & T. Kato (1989)

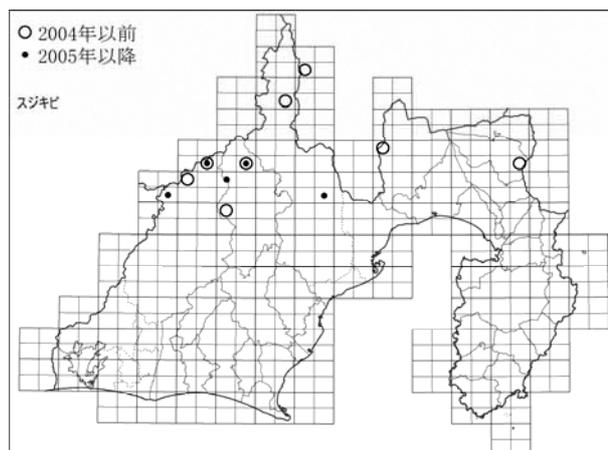
Terrestrial malacofauna of Shizuoka Prefecture in Japan: Biogeography and guild structure. *Contributions from the Biological Laboratory Kyoto University*, 27: 171-215

9. 標本

浜松市産ほか：個人所蔵 (公的機関の保管不明)



©2019 T.Kato
浜松市天竜区産 2015年11月21日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

カサネシタラ *Sitalina insignis* (Pilsbry & Hirase, 1904)

ベッコウマイマイ科 Helicarionidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

微小な陸貝で、殻高 1 mm、殻径 1.7 mm。殻は褐色半透明できわめて薄い。また、周縁角はきわめて鋭く縫合より上に位置するため、特異な形状となる。

2. 分布

日本固有種で、関東以西の本州と四国、九州に分布する。県内では各地の山地に分布するが、東部や伊豆では産地が少ない。ただし、生息密度が低く微小な貝であるため、今後新たな産地が発見される可能性がある。

3. 生息環境

自然度が高い広葉樹林の林床に生息する。溪流近くの傾斜が急で不安定な礫地で見つかることが多い。

4. 生息状況

いずれの産地でも個体数はきわめて少なく、同時に複数の個体を見いだすことはほとんどできない。

5. 減少の主要因と脅威

自然度の高い広葉樹林の減少 (11) や道路建設 (24) などによる林床の改変の影響が大きいと考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

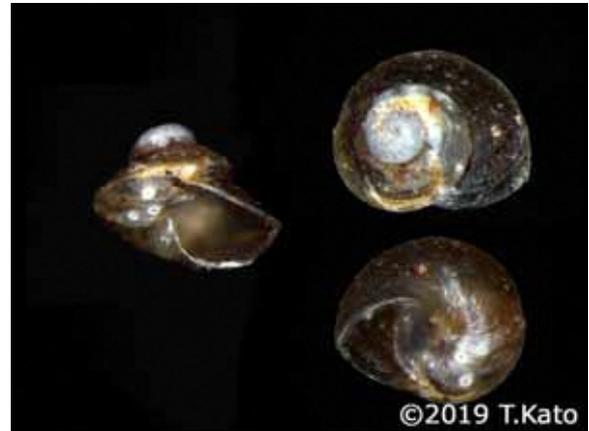
8. 主な文献

Kato, M., M. Matsumoto & T. Kato (1989)

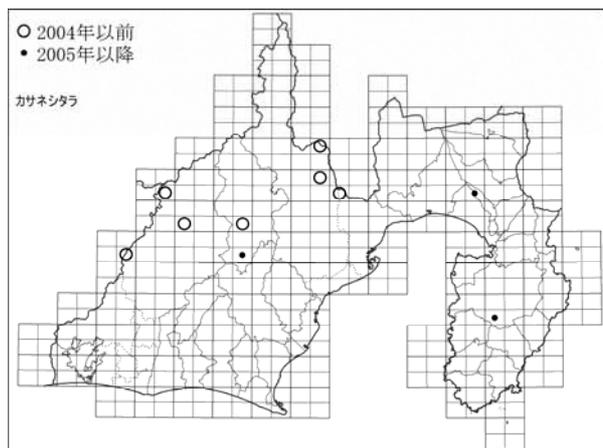
Terrestrial malacofauna of Shizuoka Prefecture in Japan: Biogeography and guild structure. *Contributions from the Biological Laboratory Kyoto University*, 27: 171-215

9. 標本

静岡市産ほか：個人所蔵 (公的機関の保管不明)



静岡市葵区産 2001年2月14日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

イシマキシロマイマイ *Aegista calcicola* (Kuroda, in Masuda & Habe, 1989)

オナジマイマイ科 Bradybaenidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-a) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧(NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

1. 種の解説

殻高 8 mm、殻径 12 mm 程度の小型の陸貝。殻は薄く、乳白色。殻口付近の周縁に弱い角がある。臍孔は大きく開く。

2. 分布

日本固有種で、静岡県と愛知県にのみ分布する。県内では中部から西部にかけて分布する。分布は局地的で、浜名湖の北側付近には生息地が多いが、他の地域にはきわめて少ない。

3. 生息環境

広葉樹林の樹上に生息する。石灰岩地では比較的個体数が多く、耕作地の周囲などでも生息することがある。非石灰岩地でも少数が生息する。

4. 生息状況

浜名湖北側の石灰岩地以外では元々個体数が少ないが、石灰岩地でも減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

広葉樹林の伐採(11)や道路建設(24)などが考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

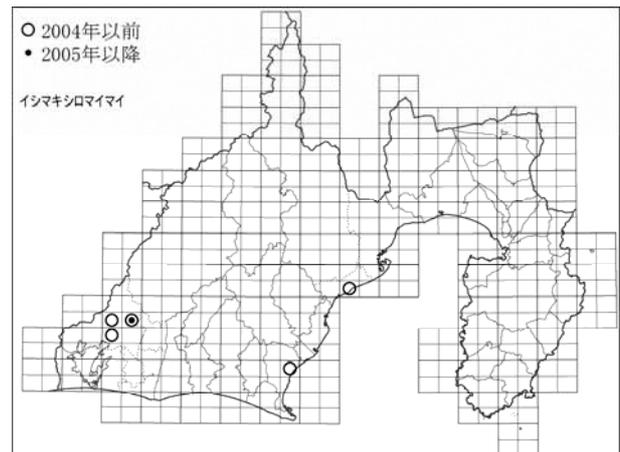
増田 修・波部忠重(1989) 静岡県陸淡水産貝類相. 東海大学自然史博物館研究報告, 3: 1-82, Color pls., I-III, pls., I-XIV.

9. 標本

浜松市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



浜松市北区産 1999年11月6日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

ミヤマヒダリマキマイマイ *Euhadra scaevola scaevola* (Martens, 1877)

オナジマイマイ科 Bradybaenidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-a) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

大型で左巻きの陸貝。殻高 16 mm、殻径 30 mm 前後であるが、地域によって形態が異なり、伊豆地域の個体群はやや小さい傾向がある。殻は褐色で成長脈が顕著である。周縁は角張るが、県西部地域の個体群は特に顕著である。浜松市西部の低山地より西の個体群は大型で、ミカワマイマイとヒラヒダリマキマイマイという別亜種にされる (川瀬ら, 2015)。

2. 分布

日本固有亜種で、本州の関東から静岡県にかけて分布する。県内では西部の低地をのぞくほぼ全域の山地に分布する。

3. 生息環境

山地の広葉樹林に生息する。比較的に残った自然林に多くの生息地がある。やや湿った礫地の林床に多い。

4. 生息状況

いずれの生息地も個体数は少なく、生貝を見つけることは困難である。

5. 減少の主要因と脅威

生息地である良好な自然林は減少しつつある。シカの生息密度が高い伊豆半島で、近年特に減少している印象があるが、シカの食害による林床植生の劣化や表土の攪乱などの影響 (54) がある可能性もある。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

川瀬基弘・西尾和久・森山昭彦・市原 俊・桜井栄一 (2015) ミヤマヒダリマキマイマイ (腹足綱: ナンバンマイマイ科) 種内の形態変異と分子系統. *Molluscan Diversity*, 4(1-2): 5-13

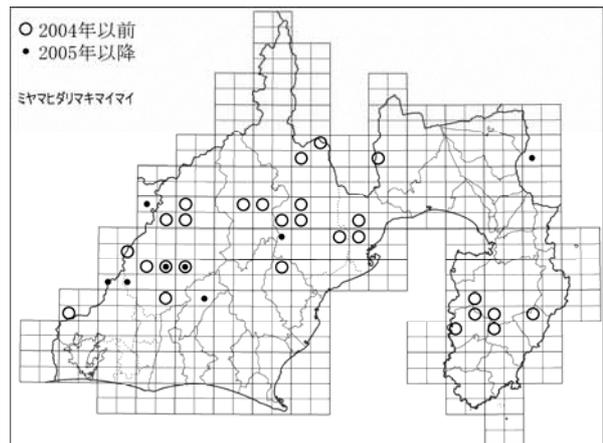
9. 標本

駿東郡小山町産ほか: 個人所蔵、伊豆天城山産・西伊豆町産: 国立科学博物館所蔵

(加藤 徹)



小山町産 2016年1月2日 加藤 徹採集



イシガイ *Nodularia douglasiae nipponensis* (Martens, 1877)

イシガイ科 Unionidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧(NT) (要件-ab) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

殻長 60 mm、殻高 30 mm 程度の淡水産二枚貝。殻は黒色で表面にさざ波状の模様があるが後に平滑になる。静岡県に生息する近似種にマツカサガイがあるが、本種はより細長く、マツカサガイのような後背部の放射状の模様がない。

2. 分布

日本固有亜種で、北海道から九州にかけて分布する。県内では大井川以西に分布する。特に浜名湖周辺に産地が多く、天竜川より東には生息地が少ない。

3. 生息環境

小川や用水路の泥や砂礫底に生息する。グロキディウム幼生時にオイカワやヨシノボリ類などの鰓や鰓に寄生するので、生息地にはこれらの魚が生息している必要がある。

4. 生息状況

浜名湖周辺では稀ではないが、その他の地域では減少が著しい。特に、天竜川以東ではほとんど見られず、島田市の産地では絶滅したと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

水路の3面張り化(13)や生活排水(31)、農薬の流入(32)などが考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

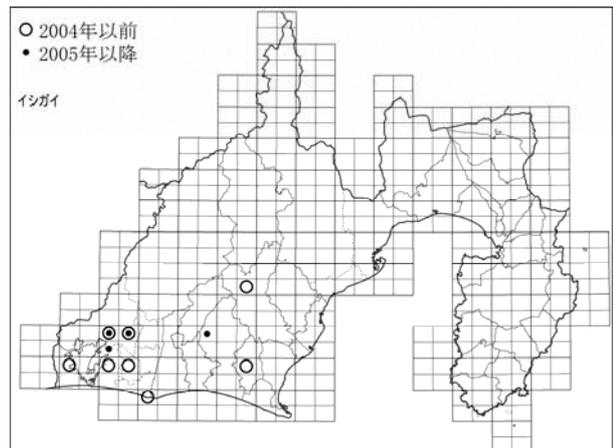
増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.

9. 標本

浜松市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



©2019 T.Kato
浜松市北区産 1997年11月3日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

1. 種の解説

汽水域に生息する二枚貝。一般に食用に供されるシジミのほとんどは本種である。殻長は 30 mm 程度のものが多いが、地域によって変異が大きく 50 mm 程度になるものもある。殻表面は幼時には黄褐色だがやがて黒くなる。内側は白色か淡青色、淡黄色などで、近似種のマシジミは少なくとも周辺部が紺色を呈す。また、本種は卵生だが、マシジミは卵胎生である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ロシアに、国内では北海道から四国、九州に分布する。県内では東部から西部の各河川の河口域や浜名湖周辺に分布する。

3. 生息環境

河口の汽水域の泥底や砂礫底に生息する。県内の河川の多くは河口域でも比較的勾配があるため、汽水域が狭く、本種の生息域も狭い。

4. 生息状況

浜名湖に注ぐ小河川の河口部では生息密度がやや高い場所も見られるが、他の地域では個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

河口域は様々な汚染物質が集まるところであるため(31、32)、本種も減少していったものと考えられる。また、流路の整備や堤防や護岸などの工作物の建設(13)などの影響も考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

かつて、浜名湖の北岸付近は塩分濃度が低く本種が多く生息し、漁獲もされていたが、太平洋との境である今切口の改良により 1950 年代前半に塩分濃度が上昇し生息に適さなくなった。佐鳴湖でもかつては漁獲されていたが、生活排水や肥料成分の流入による富栄養化により一時壊滅状態にまで激減した。

8. 主な文献

増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類。ピーシーズ、東京、240 pp.

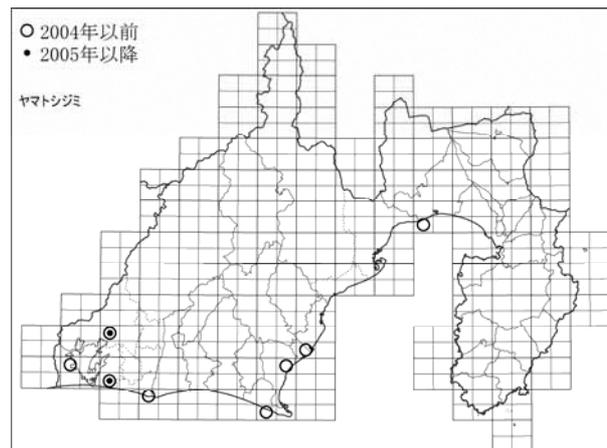
9. 標本

浜松市産：個人所蔵、湖西市新居町産：国立科学博物館所蔵

(加藤 徹)



浜松市北区産 1997年10月26日 加藤 徹採集



1. 種の解説

淡水の池沼や河川に生息する二枚貝。殻長は20～30 mm程度で地域によって変異が大きい。殻表面は褐色から黒色だが、幼時は黄褐色である。内側は紺色から淡青色だが、周辺部が紺色を呈す。近縁のヤマトシジミは汽水域に生息し、殻内側の色が異なる。また、近年急速に分布を拡げているタイワンシジミ類（複数の系統があると考えられている）は殻表が黄褐色のものが多く、内面の色彩パターンが異なるなどいくつかの区別点があるが、酷似している。

2. 分布

日本固有種で、ほぼ全国に分布するが、自然分布は本州と四国、九州と思われる。県内では河川上流部や荒廃河川をのぞく各地の河川や池沼に分布する。

3. 生息環境

河川や用水路、池沼などの砂礫底に生息する。

4. 生息状況

各地ともふつうに見られたが、個体数は元々それ程多くはなく、商業的な漁獲はほとんど行われていなかった。近年、各地の用水路などでシジミが高密度で生息しているのが見られるが、それはタイワンシジミ類である。

5. 減少の主要因と脅威

かつては至る所の陸水域に多数が生息していたが、生活排水（31）などで個体数を減らしていった。2000年代（もう少し前の可能性もある）からは、外来で繁殖力がきわめて強いタイワンシジミ類が急速に生息地を拡大しており、本種を駆逐している（56-1）。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

増田 修・内山りゅう（2004）日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類。ピーシーズ，東京，240 pp.

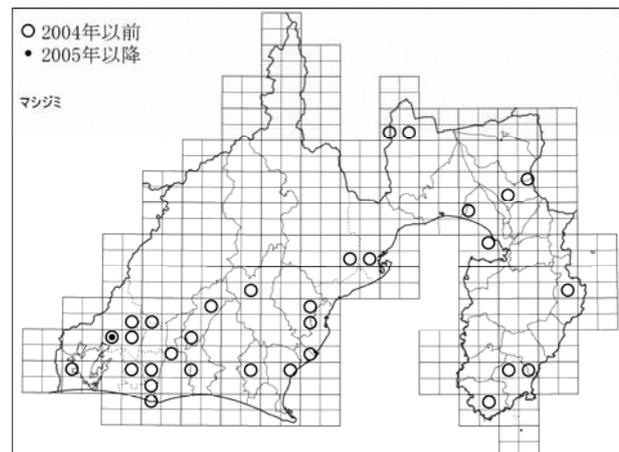
酒井治己・高橋俊雄・古丸 明（2014）日本産マシジミおよび外来タイワンシジミ類のアロザイム変異と淡水シジミ類の多様性。Venus, 72(1-4): 109-121

9. 標本

浜松市産ほか：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 T.Kato
浜松市浜北区産 1998年1月29日 加藤 徹採集



（加藤 徹）

1. 種の解説

小型の陸貝で殻高 4.5 mm、殻径 5 mm。縫合は深く、周縁は丸い。殻は暗褐色で殻表に成長脈に沿った板状褶がある。体層の周縁付近には 1 列の顕著な毛状突起があるが、近似種のサドヤマトガイには 2 列の毛状突起があり区別される。

2. 分布

日本固有種で、本州の静岡県から滋賀県にかけての東海地方に分布する。県内では静岡市と浜松市に生息する。

3. 生息環境

林床の礫間や落葉下に生息する。主に石灰岩地で見ついているが、非石灰岩地でも見ついている。

4. 生息状況

生息地がきわめて限定され、しかも個体数はきわめて少ないと考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

比較的最近になって記載された種で生態など不明なことが多いが、個体数がきわめて少ないことから些細な環境の変化(71)にも影響を受ける可能性がある。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

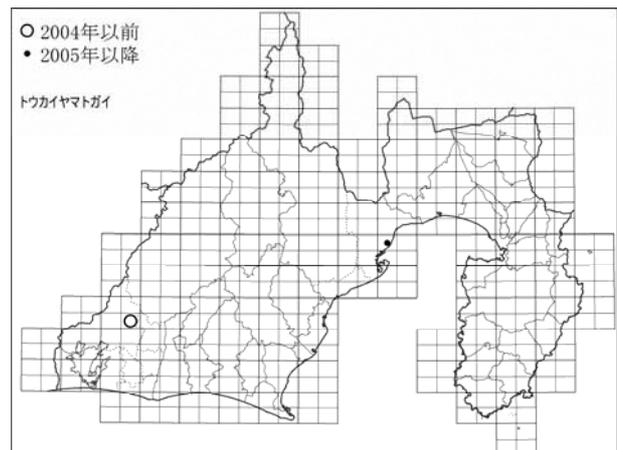
湊 宏 (1985) 日本産ヤマトガイ属の 2 新種. VENUS, 44(2): 81-86

9. 標本

静岡市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



清水区由比町産 2006年6月13日 石川 均採集



(加藤 徹)

1. 種の解説

地下水に生息する微小貝で、殻径 0.7 mm、殻高 1.5 mm 前後、螺塔は 4~5 層で縫合は深く螺層は多少ふくれ、殻頂は丸い。殻は半透明で白色か淡黄色で殻口は褐色。

2. 分布

日本固有種で、今回の調査の結果、大井川水系から愛知県豊橋市にかけて見つかった。浜松市天竜区の標高 550 m の山地でも見ついている一方で、大井川の河口付近の地下水でも見ついている (Kato *et al.*, 2010)。浜名湖北岸周辺の石灰岩地では採集箇所が多い。

3. 生息環境

多くは山間部の湧水で発見されているが、大井川河口の地下水でも見ついていることから、山地から平野にかけての地下水に広く生息していると考えられる。

4. 生息状況

多くの場所で数個体が採れているにすぎず、生息密度はかなり低いものと考えられる。ただし、それは地下水環境に生息する生物では一般的なことである。

5. 減少の主要因と脅威

地下水という特殊な環境に生息しており、生態や生息数の変化などは不明である。山地の地下水に大きな変化はないと思われるが、平野部の地下水はくみ上げによる影響 (71) や汚染 (31) などの影響が懸念される。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

なお、大井川河口では、同時にツバサコハクカノコガイも採集されている (Kato *et al.*, 2010)。

8. 主な文献

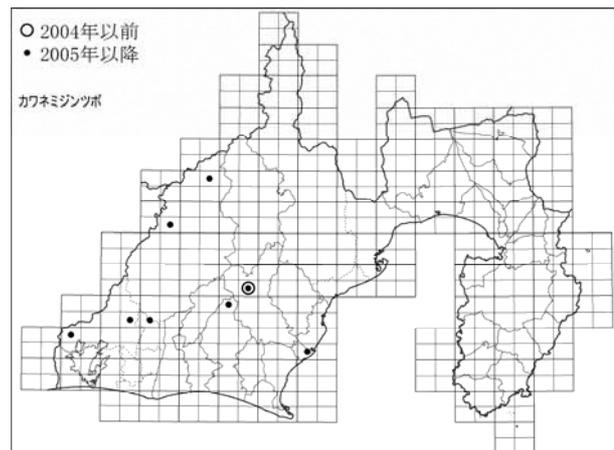
Kato, M., A. Kawakita & T. Kato (2010) Colonization to aquifers and adaptations to subterranean interstitial life by a water beetle clade (Noteridae) with description of a new *Phreatodytes* species. *Zoological Science*, 27: 717-722

9. 標本

浜松市産ほか：個人所蔵 (公的機関の保管不明)



島田市産 2010年1月31日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

イボイボナメクジ *Granulilimax fuscicornis* Minato, 1987

(=ツブツブナメクジ)

ホソアシヒダナメクジ科 Rathouisiidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-ab)変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧(NT)]

1. 種の解説

小型の殻をもたない陸貝で、伸長時に 30 mm 程度。ナメクジやコウラナメクジ類に似るが、全く異なる分類群に属する。体表には顕著な顆粒状の構造があり、名前の由来となっている。大触角は黒く、体側には先端と末端付近でつながる、2本の平行な暗色の線がある。本州に生息する陸貝では珍しく、他の陸貝を捕食する。

2. 分布

日本固有種で、山梨県から四国にかけて分布する。県内では中部以西で少数が見つかるが、発見が難しい種であるため、今後他の地域でも見つかる可能性がある。

3. 生息環境

石灰岩地のスギ林下や常緑広葉樹林の落葉下で見つかるが、詳しい生息環境は不明である。なお、本種は他の陸貝を捕食するので、陸貝が豊富な場所であることが生息条件になると考えられる。

4. 生息状況

いずれの産地でも 1 個体が採集された程度で、生息密度はかなり低いものと推測される。

5. 減少の主要因と脅威

陸貝を捕食することから、他の陸貝も生息する環境が保たれる必要があるが、そのような良好な森林の減少(11, 54)が要因であると考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

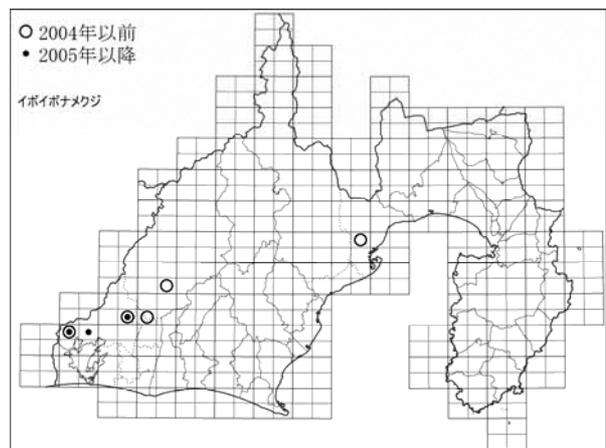
早瀬善正(2002) ホソアシヒダナメクジ科 2 種の捕食行動. かきつばた, (28): 6-8

9. 標本

浜松市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



浜松市北区 2017年4月29日 加藤 徹



(加藤 徹)

シイノミミミガイ *Cassidula plecotrematoides japonica* Möllendorff, 1901

オカミミガイ科 Ellobiidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-ab)変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧I類 (CR+EN)]

1. 種の解説

河口や内湾奥の泥上や転石下に生息する小型の貝で、殻高15 mm、殻径8 mm。黒褐色で縫合下の1螺旋溝をのぞけば平滑で、シイの実に似る。殻口の外唇に幅広の1歯、内唇に2歯、軸唇に1歯がそれぞれある。

2. 分布

日本固有亜種で、神奈川県から九州にかけて分布する。なお、基準亜種は南西諸島以南に分布し多産する。県内では狩野川河口付近での古い記録(大山, 1943)があるだけであったが、近年伊豆半島で新鮮な死殻が得られている。

3. 生息環境

河口や内湾奥にできる干潟の陸に近い部分の転石の下や石垣などの隙間に生息する。

4. 生息状況

日本本土に分布する本亜種は各地で激減しており、増田・内山(2004)によると関東から九州にかけての内湾ではほぼ絶滅しているとされ、県内での生息も心配される。狩野川河口付近ではカワザンショウガイ類も見られず、絶滅したものと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

干潟の陸側部分は、埋め立てられたりコンクリート護岸が建設されたりして(13)、本種が生息できる環境が失われていったことが大きな要因であると思われる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

福田 宏・木村昭一(2012)シイノミミミガイ. 日本ベントス学会 編, 干潟の絶滅危惧動物図鑑-海岸ベントスのレッドデータブック, p. 94. 東海大学出版会, 秦野.

増田 修・内山りゅう(2004)日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.

奥谷喬司 編著(2017)日本近海産貝類図鑑 第2版. 東海大学出版部, 秦野, 1382 pp.

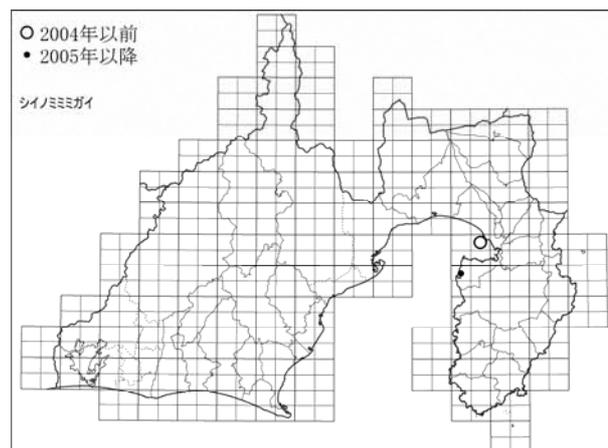
大山 桂(1943)駿河湾産軟体動物目録. 資源科学研究所彙報, 2: 1-47

9. 標本

沼津市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



沼津市産 2015年1月29日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

マルクチコギセル *Reinia holotrema* (Pilsbry, 1902)

キセルガイ科 Clausiliidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-b)変更コード4

[2004年版カテゴリー なし；環境省カテゴリー 絶滅危惧I類 (CR+EN)]

1. 種の解説

山地に生息する小型の陸貝。殻高13~14mm、殻径4mmで太い紡錘形。殻口は大きく開き、下板は顕著だが、上板はないか痕跡的。殻表は、各層の上側が白く下側が赤紫褐色に染め分けられ、さらに成長脈に沿った縞模様が顕著である。樹上性でブナなどの広葉樹の幹で生活する。

2. 分布

日本固有種で、紀伊半島と九州に分布するが、2016年に静岡県でも生息が確認された(佐藤ら, 2016)。生息地は極端に隔離されている。県内では静岡市の安倍川上流部でのみ確認されている。

3. 生息環境

オオイタヤメイゲツやブナの大径木がある自然林でのみ発見されている。また、大径木の周囲でしか発見されておらず、大径木の存在が重要であると考えられる。

4. 生息状況

確認地点は2ヶ所しかなく、そこでもわずかに数本の大径木とその周辺の樹木でのみ確認されているにすぎず、生息数はかなり少ないと考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

本種が生息するブナなどの大径木の減少(54)が大きいと考えられるが、発見されて間もないこともあり、不明なことが多い。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

キセルガイ科はDNA解析の結果、属が再編された(Motochin *et al.*, 2017)。

8. 主な文献

Motochin, R., M. Wang & R. Ueshima (2017) Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). *Zoo. J. Linn. Soc.*, 181(4): 795-845

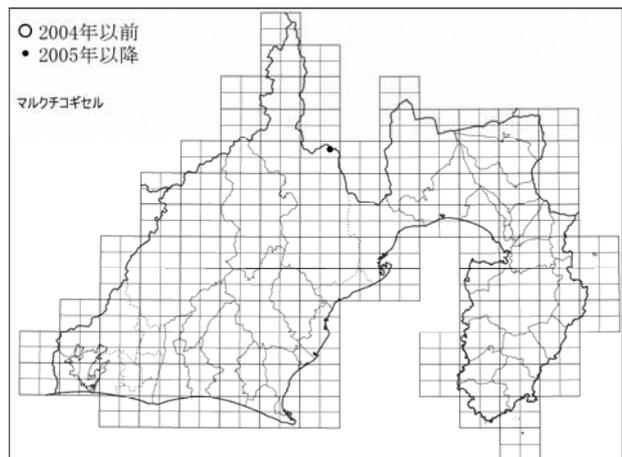
佐藤拓也・大貫貴清・早瀬善正(2016) 静岡県におけるマルクチコギセルの新分布記録. *ちりぼたん*, 46(3-4): 144-149

9. 標本

静岡市産：国立科学博物館所蔵(NSMT-Mo78929)



静岡市産 2018年10月1日 佐藤拓也撮影



(加藤 徹)

サドタカキビ *Trochochlamys xenica* (Pilsbry & Hirase, 1903)

ベッコウマイマイ科 Helicarionidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-b)変更コード4

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 情報不足 (DD)]

1. 種の解説

山地に生息する微小な陸貝。螺塔は高い円錐形で、殻高 3.8 mm、殻径 2.5 mm 程度。殻は黄褐色で薄い。周縁角はあるがはっきりせず、殻底がふくらむ。県内各地に生息するタカキビとはよく似ているが、タカキビは周縁角が鋭く、殻底のふくらみが弱いことで区別がつく。

2. 分布

日本固有種で、北陸・関東から近畿地方の本州と四国、九州に分布するが局地的で産地は少ない。県内では浜松市の 1 ヶ所でのみ生息が確認されている。

3. 生息環境

広葉樹林の林床の低木上 (矢野, 2004) または落葉下 (埼玉県環境部みどり自然課, 2008) に生息すると考えられるが、県内で確認されている場所は小さな石灰岩の露頭の落葉下である。生息地は近年シカの食害により林床植生の衰退が激しいため、植生上での生息は確認できていない。

4. 生息状況

確認されているのはごく狭い範囲で個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

もともと、極く限られた場所にしか生息していなかったものと思われるが、確認数がきわめて少なく不明なことが多い。近年、シカの生息密度が高くなり、林床環境の質の低下 (54) が本種にとっては大きな脅威となっている可能性もある。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

埼玉県環境部みどり自然課 (2008) 埼玉県レッドデータブック 2008 動物編. 同課, さいたま市, 352 pp.
矢野重文 (2004) サドタカキビ. 香川県希少野生生物保護対策検討会 編, 香川県レッドデータブック香川県の希少野生生物, p. 377. 香川自然環境保全調査会, 高松.

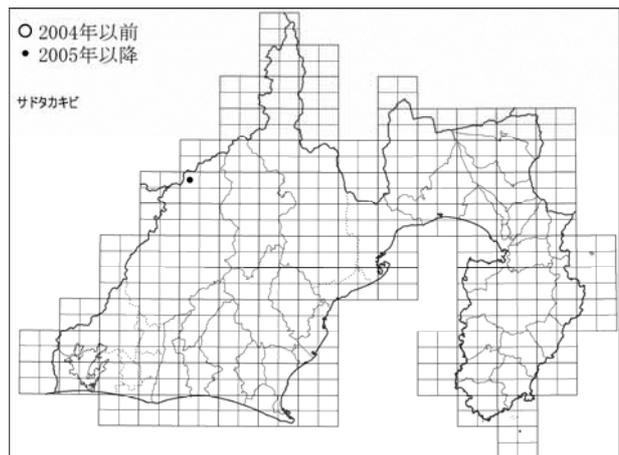
9. 標本

浜松市産：個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(加藤 徹)



浜松市天竜区産 2008年2月2日 加藤 徹採集



タンザワキビ *Trochochlamys tanzawaensis* Sorita & Kawana, 1983

ベッコウマイマイ科 Helicarionidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD)(要件-b)変更コード4

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 情報不足(DD)]

1. 種の解説

山地に生息する微小な陸貝だが、キビガイ類としてはかなり大型で、殻径 6 mm、殻高 4.7 mm。殻は薄く黄褐色で半透明。周縁角は鋭い。県内に広く分布するヒメオオタキキビに似ているが、より大型で螺旋塔がやや低い。

2. 分布

日本固有種で、神奈川県丹沢山地周辺でのみ確認されていたが、今回の調査で静岡県の富士宮市の3ヶ所で生息が確認された。それでも、かなりの狭分布種である。

3. 生息環境

静岡県では、落葉広葉樹林の林床において、堆積した礫の隙間で見つかる。

4. 生息状況

生息地でも生息範囲は狭く、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

広葉樹林の伐採(11)は、本種への脅威となる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

生息地がきわめて限られることから特殊な生息条件が必要である可能性がある。しかし、種の記載が新しく、県内で発見されたのも最近であり、分布や生態など不明なことが多い。

8. 主な文献

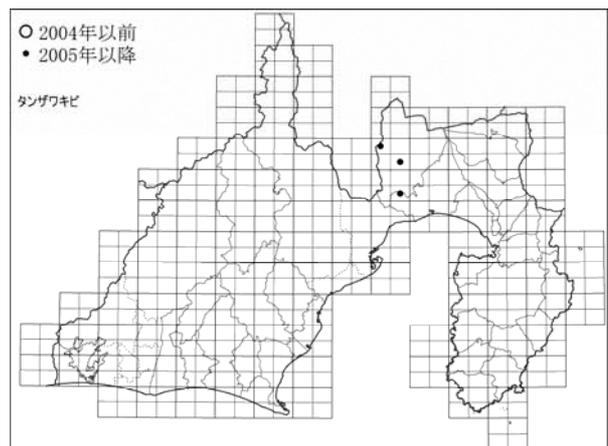
反田栄一・川名美佐男(1983) 関東地方産ベッコウマイマイ科の2新種. *Venus*, 42(1): 35-43

9. 標本

富士宮市産：個人所蔵(公的機関の保管不明)



富士宮市産 2016年4月10日 加藤 徹採集



(加藤 徹)

ヤマコウラナメクジ *Nipponolimax monticola* Yamaguchi & Habe, 1955

コウラナメクジ科 Limacidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-ab)変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

山地に生息する殻のない陸貝。体長 30 mm 程度で、体全体が黒色。体前方の上面に退化した殻を内蔵する外套膜でできた楯がある。近似のオオコウラナメクジは軟体の後半上面に稜角があるが、本種にはない。

2. 分布

日本固有種で、本州と四国に分布する。静岡県では浜松市の山岳地で 1 個体が採集されているにすぎない。

3. 生息環境

標高 1,500 m 程度の溪流沿いのブナなどの自然林で、倒木上を這っているところを発見された。生息数が少なく、生態などについては不明なところが多い。

4. 生息状況

山地のブナ林などに生息すると考えられるが、個体数はきわめて少ないと考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

県内ではもともと生息数が少なかったと思われるが、近年のシカの生息密度の高まりによる林床植生の減少やそれに伴う林床の乾燥化など (54) が懸念される。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

採集例がきわめて少ないため、絶滅の危惧について判断できる知見がえられていない。

8. 主な文献

Kato, M., M. Matsumoto & T. Kato (1989) Terrestrial malacofauna of Shizuoka Prefecture in Japan: Biogeography and guild structure. *Contributions from the Biological Laboratory Kyoto University*, 27: 171-215

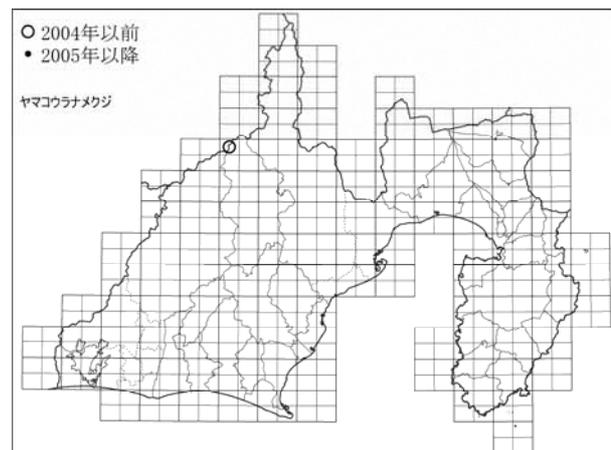
9. 標本

浜松市産：個人所蔵（公的機関の保管不明）

(加藤 徹)



©2019 T.Kato
青森県 2012年5月4日 加藤 徹



オオコウラナメクジ *Nipponarion carinatus* Yamaguchi & Habe, 1955

コウラナメクジ科 Limacidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-ab)変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

山地に生息する陸貝。殻は小さく退化し、軟体上部の外套膜内に痕跡的に残る。伸長時の体長は 35 mm、体の後半は著しい稜角となる。体は褐色で、頭部周辺と触角は黒色を呈す。

2. 分布

日本固有種で、本州から四国、九州に分布する。県内では富士山と天城山のブナ林でのみ生息が確認されている。

3. 生息環境

生息地はブナやオオイタヤメイゲツ、サワグルミなどの自然度の高い大径林で、湿度が高い林床の朽ち木の周囲などで見られた。

4. 生息状況

県内での生息密度はきわめて低い。

5. 減少の主要因と脅威

近年のシカの生息密度の高まりによる林床植生の減少やそれに伴う林床の乾燥化など(54)が懸念される。

6. 保護対策

生息が確認された場所の一つは富士箱根伊豆国立公園の特別保護地区に指定されている。

7. 特記事項

自然度の高い森林に生息するが、生息密度がきわめて低いため、絶滅の危惧について判断できる知見がえられていない。

8. 主な文献

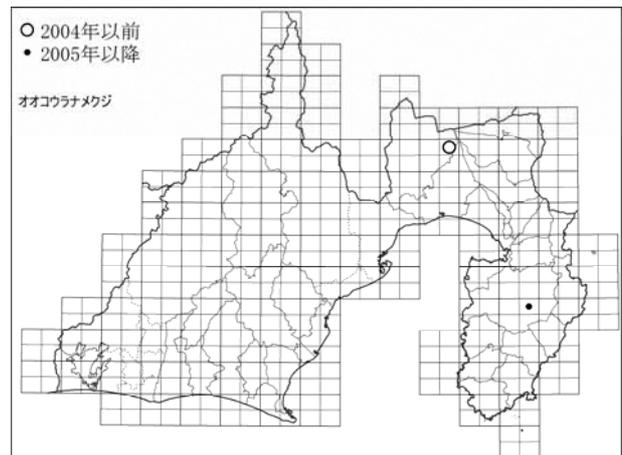
加藤 徹 (1998) 静岡県初記録及び新分布の陸・淡水産貝類. 遠州の自然, (21): 15-16

9. 標本

天城山産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



富士宮市 1995年10月1日 加藤 徹



(加藤 徹)

コベソマイマイ *Satsuma myomphala* (Martens, 1865)

ナンバンマイマイ科 Camaenidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-ab)変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の陸貝で殻高 30 mm、殻径 45 mm 程度。螺塔は低く薄い黄褐色で周縁に赤褐色の細い色帯がある。成貝の臍孔は閉じる。本県に生息する近似種としてミノブマイマイがいるが、この種は臍孔が開くことで区別がつく。なお、両種の混生は確認されていない。

2. 分布

日本固有種で、関東以南の本州と四国、九州に分布する。西日本では普通種であるが、県内では富士山の周辺にごく局地的に分布するのみである。

3. 生息環境

県内では丘陵地の比較的乾燥した落葉広葉樹林で見ついている。

4. 生息状況

県内では生息範囲が狭く、4ヶ所でわずかな個体が採集された記録があるにすぎない。一般に稀産種とされるミノブマイマイよりも県内ではさらに稀産で、個体数はきわめて少ないと考えられる。また、近年生貝が見つからない。

5. 減少の主要因と脅威

県内ではもともと生息密度がきわめて低いことが背景にあり、道路建設 (24) や伐採 (11) などの隣接部の些細な環境の変化にも影響を受けている可能性がある。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

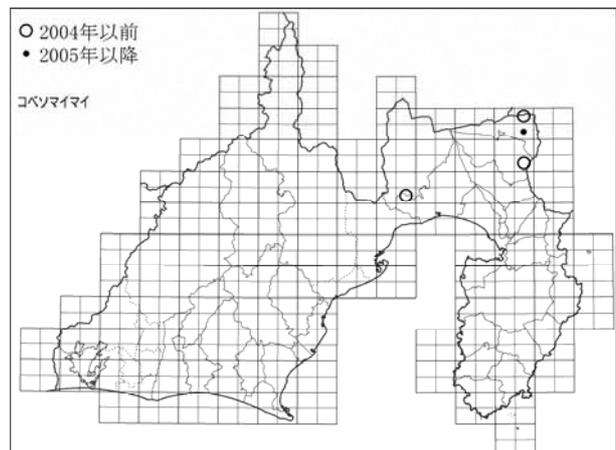
Kato, M., M. Matsumoto & T. Kato (1989) Terrestrial malacofauna of Shizuoka Prefecture in Japan: Biogeography and guild structure. *Contributions from the Biological Laboratory Kyoto University*, 27: 171-215

9. 標本

富士市産ほか：個人所蔵（公的機関の保管不明）



富士市 1984年4月8日 加藤 徹



(加藤 徹)

ミニビロウドマイマイ *Nipponochloritis takedai* Minato, 1984

ナンバンマイマイ科 Camaenidae

静岡県カテゴリー 情報不足(DD) (要件-abc) 変更なし

[2004年版カテゴリー 情報不足(DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

1. 種の解説

山地に生息する小型の陸貝。殻高 6 mm、殻径 11 mm。殻表には細かい毛状突起を密生させた殻皮があり、ビロード状を呈す。県内産の他のビロウドマイマイ類より小型で、成貝でも臍孔が大きく開くことで区別される。

2. 分布

日本固有種で、静岡県と愛知県にのみ分布する。県内では中部と西部の3ヶ所で見つかっている。浜松市北区引佐町金指が基準産地である。

3. 生息環境

丘陵地から山地の広葉樹林下の落葉下や倒木下に生息する。

4. 生息状況

各調査地とも生息数はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

広葉樹林の伐採(11)は、本種への脅威となる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

採集例が少なく、不明なことが多いため、絶滅の危惧について判断できる知見がえられていない。

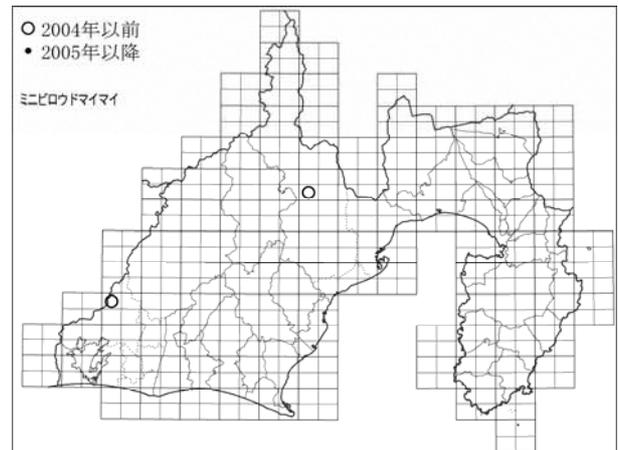
8. 主な文献

湊 宏(1984) 静岡県産の珍奇なミニビロウドマイマイ(新種). *Venus*, 43(3): 193-195

9. 標本

浜松市産: 国立科学博物館所蔵(パラタイプ)

NO IMAGE



(加藤 徹)